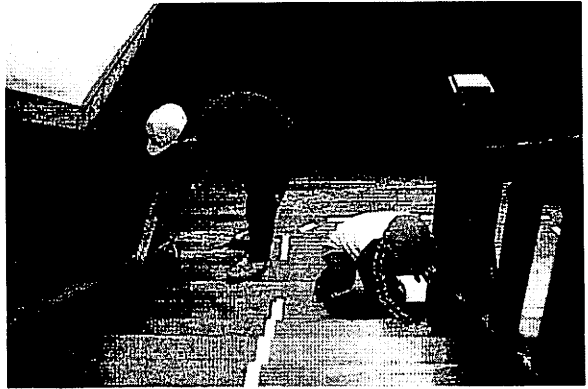


活が二の次になるのも分らないわけではありませんが、体をつくる基本です。特に、・生活する・という伝えるべき事は子どもにきちんと伝えて、自立の手助けとなりたいのです。子どもは、徐々に親の手を離れるでしょう。それまでの間、私は私なりの尺度で見守ってやりたいと思います。

(ひろせ みゆき 豊栄市・主婦)



「学校だいすき」

「写真展」をみる

第九回学校大好き写真展(新潟市美術館)をみました。「いじめ」や「不登校」に苦しむ今の学校の状況の中でこんなテーマに応募した写真を見てみたかったです。

中高生の体育祭や老若男女、村ぐるみの運動会の生き生きした情景など子どもが本来もっているエネルギーをつたえる写真などもありましたが、通俗的な「こどもは元気」といった作品も目立ちました。その中での入賞作品はさすがに厳しい状況におかれた学校の中で作者が子どもたちに深い愛情を寄せているのが伝わってくるものでした。

一位の大賞受賞者は昨年とおなじく五泉市馬下小学校教諭渡辺護さんです。

(本田)

△題▽「もうすぐ廃校」

△評▽ 自分たちの学校・木造校舎を大切に思う気持ちが伝わってくるような一枚、暗くなりがち画面に紅白帽がアクセントをあたえ構図的にとてもよく仕上がっている。

光と影のバランス、人の動きがとてもよく審査員全員一致できまってもくなしの力作である。